

児童発達支援クラブ メロディ

事業者向け 児童発達支援 自己評価表

令和4年3月31日

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			一階でサーキットや音楽活動をしています。人が多い時には公園に行ってグループを作って活動しています。
	② 職員の配置数は適切であるか	○			利用者人数や活動によって人数配置を換えているが、十分なスタッフ配置ができていると思う。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			各部屋にマークを付け、子どもたちが分かりやすいように環境を整えている。階段の段差が高く子ども向きになっていないところもある。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○		未就学児と就学時の両方にあわせた空間作りをしなければならないが、未就学児にあった空間が十分でない。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			年度初めに目標設定を行い、10・3月に自己評価をするシステム。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			毎年1度アンケートをとり、利用者の意見を聞いている。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページに公開している。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		外部専門家としてOTの木村順先生と元八幡学園職員の土橋良太先生をお招きして、支援等に関するアドバイスを頂いている。
適切な支援の提供	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎年1回は法人全体研修を行っている。毎月色々な研修の機会を設ける。
	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成しているか	○			個人個人にあって将来の自立に向けた計画を児童の環境にあわせ保護者と話し合いながら行っている
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			場合により、検査を行えるようにK式等の検査キットを準備している
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインお「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択されその上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			ガイドラインでチェックを行ったが、ほぼ沿って支援できていると思う
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			支援内容についてスタッフの話し合いを持ち検討している
⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			月案週案日案の作成を行っている	
⑮ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			利用者集団にあわせたプログラムに心がけている	

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○			集団と個別活動のプログラムを作り、個々のニーズに合わせて行っている
	⑰	支援開始前には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝は児童事業所全体で打ち合わせ(児童配慮点など)活動前は各事業所で打ち合わせ
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りし、気付いた点等を共有しているか	○			事業終了後、事業所で反省、その後法人全体での反省を行っている
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			記録は、個人日誌や活動計画に反省まで記録している
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○			定期的にモニタリングを行っていただきたいが、相談員は電話が多い。子供のフェイスシートを作成して理解してもらう。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			その時関わっているスタッフを複数参加させるようにしている
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○			関係機関と連携をとり保護者の不安を和らげるよう促す
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○			看護師がいないため、利用する場合は、親子一緒に来所していただいている。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○			看護師がいないため、利用する場合は、親子一緒に来所していただいている。
	㉕	以降支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			以前は保育所や幼稚園連携の受け入れを拒否されることが多かったが受け入れてもらえることも増えてきた。
	㉖	以降支援として、小学校や特別支援学校(小学部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			学校等の情報を共有できるよう心がけている。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			センターでの研修にはなるべく参加するよう心がけている
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			事業所としては交流していないが、幼稚園のプレを利用している方が多い
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			機会があまり得られない。
	㉚	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子供の発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			利用時に保護者の話を聞き取り、相談にのる体制を整えている
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○			以前はペアレントトレーニングは、スタッフ研修で取り入れたが、現実的には難しくペアレントプログラムの導入を検討している
㉜	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			運営規定は事業所の入口に配置。支援やお支払いの内容については、送迎時にお知らせしている。	

③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○			ガイドラインでチェックを行ったが、ほぼ沿って支援できていると思う
③④	定期的に、保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			個別の面談や相談は要望により随時行っている。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			親子ふれあいや就学時前保護者会・動物公園花壇ボランティア保護者交流会などを定期的に行っている。今年度はコロナ感染症対策のため控えている。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			迅速かつ適切な対応が、行えるような体制にしている
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月通信を発行、また年に1度「風のささやき」を発行している
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			スタッフから個人情報守秘義務の誓約書で確認している
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			帰りのとき、保護者に児童の様子を伝えたり、保護者の様子を感じ取りたい心がけている
④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○			緊急時対応マニュアルをつくり周知している
④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に2回避難訓練を行う、また非常食を食べる機会を作る。未就学児童については訓練を行っていないが、公園へ行くことで避難場所に慣れてもらっている。
④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			保護者に調査書の記入を以来、更新を行い状況を把握している。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示所に基づく対応がされているか	○			打ち合わせのときに確認して周知する。台所に明記してある。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			毎月スタッフ会議のときに法人全体に発表して対処の方法を話し合う。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			虐待が起こらないように、発達の研修を行い、児童の状況を把握し虐待が起こらないよう、対処の仕方を話し合い対処する。法人内に委員会も立ち上げ実施している。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			身体拘束についてのマニュアルの作成。止む追えない場合は、保護者の同意書をもらい、最小限実施。